

Marshall



STUDIO JTM

ST20H & ST20C

QUICK START GUIDE



MARSHALL

警告:安全の手引き

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。全ての注意書きに従い、警告を守ってください。

警告: 電源は必ず交流100Vを使用してください。ご不明な点がございましたらご購入店にご相談ください。

電源入力とヒューズ:

アンプの定格電圧はリアパネルに記載されています。付属の電源コードをアンプ裏面のMAINS INPUTに接続してください。

ヒューズの定格はリアパネルに記載されています。絶対にヒューズ回路を遮断したり、定格以外のヒューズを使用しないでください。

重要なセットアップ情報

1. 外部のスピーカーキャビネットと組み合わせる場合は、正しいインピーダンスのスピーカーキャビネットが接続されていることを確認してください。詳細についてはリアパネル機能のSPEAKER OUTの説明を参照してください。

警告: 正しく接続を行わないとアンプ及び、他機器の破損の原因になります。

スピーカーキャビネットの接続には専用のケーブルをご使用ください。

スピーカーキャビネットの接続にギター用のシールドケーブルは絶対に使わないでください。

2. POWERスイッチがオフになっており、STANDBYスイッチがセンター位置 (STBY) になっていることを確認してください。
3. 最初にリアパネルのMAINS INPUT (主電源入力) に電源ケーブルを接続し、次にコンセントに差し込みます。
4. フロントパネルのコントロールが全てゼロになっていることを確認してください。
5. ギターをフロントパネルのINPUTに接続して下さい。
6. POWERスイッチをONに切り替え、数

分お待ちください。

7. STANDBYスイッチをHIGH (20W) またはLOW (5W) に設定してください。
8. 音量をお好みの程度まであげれば演奏可能な状態になります。

アンプを持ち運ぶ際のご注意

機器の電源を切った上、電源ケーブルや全ての接続ケーブルを外し移動/運搬を行ってください。

アンプは単独で移動してください。キャビネットや他の機器の上に積み重ねた状態で移動させないでください。

概要と仕様

すべての始まりとなったアンプが帰ってきました。Studioシリーズに新たに加わったJTMは、真正正銘の滑らかな真空管オーバードライブを小音量で実現し、自宅やスタジオでの使用に最適です。一時代を築いたサウンドを生み出すJTMは、世界中で知られているクランチとクリーンを融合した伝説的な爆音を提供します。

ST20H (アンプヘッド)

| | |
|---------|--|
| 出力ワット数 | 20Wまたは5W |
| 真空管 | 2×ECC83、1×ECC83(フェイズスプリッター)、2×5881 |
| チャンネル | ハイ・トレブル/ラウドネス1 ノーマル/ラウドネス2 ハイ・トレブル入力(1) ノーマル入力(2) |
| イコライザー | トレブル、ミドル、ベース、プレゼンス |
| スピーカー出力 | 5(16Ω×1/8Ω×2/4Ω×2) |
| 出力 | DI出力 |
| 本体重量 | 9.25kg |
| 本体横幅 | 500mm |
| 本体高さ | 240mm |
| 本体奥行 | 230mm |
| 付属品 | 電源ケーブル×1 スピーカーケーブル×1 |

ST20C (コンポアンプ)

| | |
|---------|--|
| 出力ワット数 | 20Wまたは5W |
| 真空管 | 2×ECC83、1×ECC83(フェイズスプリッター)、2×5881 |
| チャンネル | ハイ・トレブル/ラウドネス1 ノーマル/ラウドネス2 ハイ・トレブル入力(1) ノーマル入力(2) |
| イコライザー | トレブル、ミドル、ベース、プレゼンス |
| スピーカー出力 | 5(16Ω×1/8Ω×2/4Ω×2) |
| 出力 | DI出力 |
| スピーカー構成 | 1×12インチ |
| スピーカー仕様 | Celestion G12M-65 Creamback(16Ω, 65W) |
| 本体重量 | 17.8kg |
| 本体横幅 | 500mm |
| 本体高さ | 460mm |
| 本体奥行 | 265mm |
| 付属品 | 電源ケーブル×1 |

発売元:

株式会社ヤマハミュージックジャパン LM営業部
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11

お問い合わせ先:

ヤマハミュージックジャパンお客様コミュニケーションセンターギタ
ー・ドラムご相談窓口

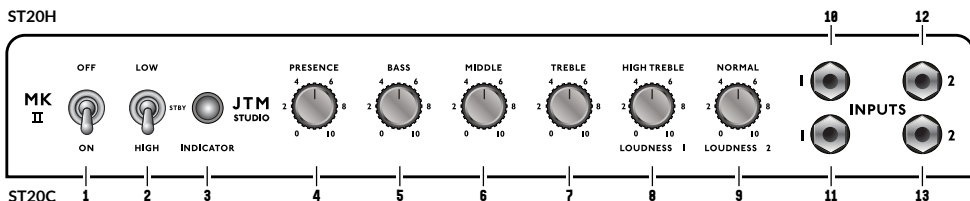
TEL(ナビダイヤル):0570-056-808

受付時間:月曜～金曜 10:00～17:00

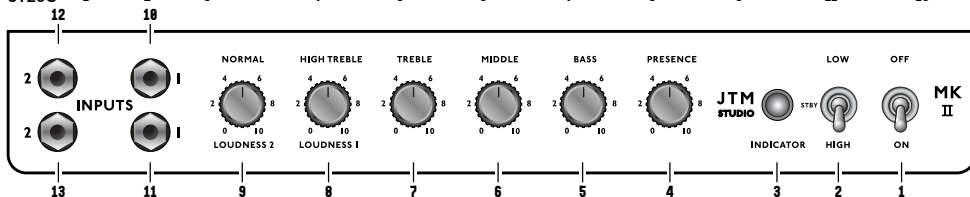
(土日・祝日・センター指定定休日を除く)

フロントパネルの機能

ST20H



ST20C



1. 電源スイッチ

ON (オンの) の位置にすると電源が入ります。

2. スタンバイスイッチ

このスイッチがLOWの位置では低出力モード (5W)、中央の位置ではスタンバイ、HIGHの位置では高出力モード (20W) で駆動します。

STANDBY MODE (スタンバイモード): アンプの使用を一時中断する場合はこのモードに設定します。必ずアンプの電源を入れて2分以上経ってからこのスイッチをHIGHまたはLOWに設定してください。

3. 電源インジケータ

電源を入れると点灯します。

4. プレゼンス

パワーアンプ部でサウンド全体の超高周波帯域の出力を調節し、サウンドに切れ味を加えます。

5. ベース

低音域の出力を調節し、サウンドに深みと温かみを加えます。

6. ミドル

中音域の出力を調節し、サウンドの厚みを調節します。

7. トレブル

高音域の出力を調節し、サウンドに明るさを加

えます。

8. ハイ・トレブル/ラウドネス1:

ハイ・トレブル入力の音量を調節します。

9. ノーマル/ラウドネス2:

ノーマル入力の音量を調節します。

10 & 11. ハイ・トレブル入力 (1):

ハイ・トレブル・チャンネルのボイスिंगは、ブライトでクリスピーなトーンになります。ギターを高感度入力 (10) に接続すると歪みやすく (または低出力ピックアップの補正)、低感度入力 (11) に接続するとクリーンなトーン (または高出力ピックアップの補正) になります。

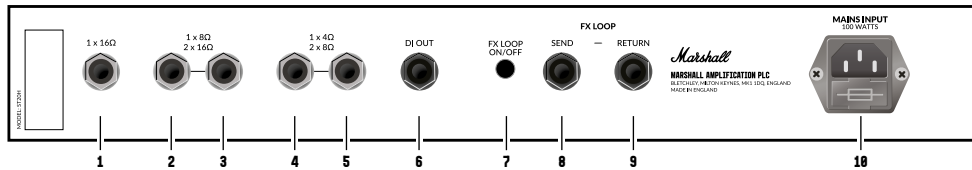
12 & 13. ノーマル入力 (2):

ノーマル・チャンネルのボイスिंगは、より丸みを帯びた豊かなトーンになります。ギターを高感度入力 (12) に接続すると歪みやすく (または低出力ピックアップの補正)、低感度入力 (13) に接続するとクリーンなトーン (または高出力ピックアップの補正) になります。

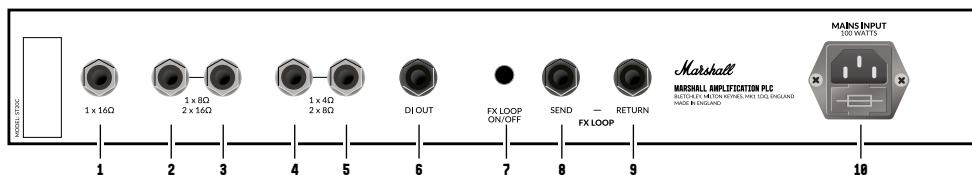
INPUTSについて: 4つのインプット・ジャックを対角線にパッチケーブルなどで接続 (これをリンク接続といいます) すると、LOUDNESS 1と2両方が動作するようになり、このバランスによって両チャンネルの特性をブレンドできます。この接続では、ギターからインプットされるジャックのプリアンプと感度の特性が最も強く反映されます。

リアパネルの機能

ST20H



ST20C



1. スピーカー出力

16Ωスピーカー出力です。

2. スピーカー出力

8Ωスピーカー出力です。16Ωスピーカーを2台接続する場合は出力3を併用します。

3. スピーカー出力

8Ωスピーカー出力です。
16Ωスピーカーを2台接続する場合は出力2を併用します。

4. スピーカー出力

4Ωスピーカー出力です。
8Ωスピーカーを2台接続する場合は出力5を併用します。

5. スピーカー出力

4Ωスピーカー出力です。
8Ωスピーカーを3台接続する場合は出力4を併用します。

警告: スピーカー出力が5つありますが3台以上のスピーカーキャビネットの接続はできません。

安全な組み合わせは

1x16Ω、1x8Ω、2x16Ω、1x4Ω、2x8Ω

のいずれかのみです。

この他の組み合わせによる使用はパワーアンプ部に負担をかけ、真空管または出力トランスの故

障の原因となります。

注意: ST20H/ST20Cは必ずスピーカーを接続してご使用ください。

6. DI出力

ミキサーやレコーディング機器等へ接続するライン出力です。

メモ: この出力にはスピーカー・エミュレーションが施されています

7. LOOP (ループ) スイッチ

エフェクトループをON/OFFします。OFFにすると回路上からは完全に切り離されます。

8. エフェクトループ・センド

エフェクトループを使う場合、外部エフェクターのインプットに接続します。

9. エフェクトループ・リターン

エフェクトループを使う場合、外部エフェクターのアウトプットに接続します。

10. 電源インレット

付属の電源コードを接続します。